

蕨・戸田
地区

保護司会だより



戸田橋花火大会 毎年8月第1土曜日に開催される全国有数の花火大会



未完の行為について

さいたま保護観察所長

押切 久遠

蕨・戸田地区保護司会の皆様には、日頃より更生保護の活動に一方ならぬ御尽力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、ゲシュタルト療法という心理療法を開発した精神科医・パウルズがよく使った言葉に、「未完の行為」があります。人には、「あの時こうしなかったのに、結局できなかった」という心残りがあり、それが場合によってはその人の後の心理や行動に大きな影響を与えるという考え方です。ゲシュタルト療法では、この「未完の行為」への気づきを促し、それをロールプレイ（役割演技）等で完成させてみるといったことを試みます。

例えば、幼少期に実父母が離婚し、継母と暮らすことになったのだけなど、いつも遠慮しながら生活してきた人の場合。その人は、「継母に対して本当は色んなことをお願いしたかった」「実母に対して、どうして私を置いて行ってしまったのか、聞

きたかった」という未完の行為を抱えていて、そのことが、成人後も周囲の人にお願ひするのが苦手で、結局独りで問題を抱え疲弊してしまうという対人パターンに影響してしまいます。

ゲシュタルト療法では、その場面をロールプレイ等で表現し、本人が本当は言いたかったことを言うてみるにより、気づきや癒しや変化へとつなげていきます。

私たちは多かれ少なかれ未完の行為を抱え、時にそれが完成すると喜びや満足を感じるということを繰り返しています。ただ、保護観察の対象となった人の未完の行為は、とても大きなダメージとともに根深くその人の心に巣食っており、それを完成させることは至難の技であるように感じます。それでも、その人の未完の行為は何であるのかと思いを巡らすことは、その人に対する指導や支援を考える上で、大きなヒントになるのではないかと考えます。

明るい社会・地域の実現に向けて



戸田市長

菅原 文仁

蕨・戸田地区保護司会の皆様には、日頃から更生保護活動のご尽力、そして保護司同士の交流や勉強会など様々な活動を通して研鑽を積まれ、地域の安全で安心して暮らせる社会の実現にご尽力いただいていることに対して、心からの敬意と感謝を申し上げます。

さて、犯罪を犯す者のうち再犯者の占める割合は依然として高い水準にあり、再犯を抑止するための再犯防止対策を図ることが急務となっております。再犯防止対策では、就労の確保が効果的であることから、戸田市では、県内でも先駆けて入札業務における協力雇用主に対する入札参加資格審査の優遇措置を実施し、就労に向けた支援の充実を図っております。今後も取り組むべき有効な再犯防止対策を種々検討してまいります。

ますので、保護司の皆様におかれましては、引き続き更生保護にご協力をよろしくお願い申し上げます。結びに、今後の更なる活動の充実と貴会のみましますのご発展、ご活躍を祈念いたします。



安全・安心な地域社会づくり



蕨市理事

川崎 文也

蕨・戸田地区保護司会の皆様には、日頃より更生保護活動をはじめ、犯罪防止活動や青少年の健全育成など市政の推進に格段のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

保護司の皆様は、犯罪や非行をした人の立ち直りを支えるとともに、そうした立ち直りの支援について、広く社会の理解を深めるものであると認識しており、日頃の皆様のご尽力に対しまして心からの敬意と感謝を申し上げます。

さて、平成28年12月に「再犯の防止等の推進に関する法律」が施行され、翌年には国の再犯防止推進計画が策定されました。その背景として、年々犯罪の発生件数が減少する一方で、検挙された人の半数近くが再犯者であるという重い現実があります。

蕨市といたしましては、誰もが安全・安心に暮らせる社会の実現のためには、再犯防止の取組の推進が大変重要であると認識しており、貴会及び保護観察所をはじめとする関係機関の皆様との一層の連携のもと、自治体としての役割をしっかりと果たせるよう努めてまいります。

結びに、安全・安心な地域社会づくりに向けて、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、貴会のみましますのご発展を祈念申し上げます。



社会を明るくする運動

蕨支部

蕨支部の社会を明るくする運動は、子育てアドバイザーの幸島美智子先生をお迎えし、「犯罪予防に家族&地域のチカラを一緒に考えてみませんか？」と題し、①子供たちを性犯罪から守る②地域における防犯対策③虐待の早期発見と対策④いじめ問題への対応⑤スマホ利用に関するトラブルについて⑥子供の正常な発達と段階的な親のかわり等のテーマについて元警察官としての体験を交えた大変有意義なお話でした。講演会に出席した学校関係者、子育て中の方、更生保護に携わる皆さんそれぞれが思い当たる事があるようで、先生のお話を熱心に聞き入り予定の時間があつという間に経過してしまいました。

(小槻保美)

戸田支部

戸田支部では今年度も7月2日、市長をはじめ、戸田市暴力排除推進協議会、戸田市更生保護女性会、戸田市福祉保健センター職員の方々のご協力のもと、JR埼京線市内3駅で、それぞれに分かれて啓発物品を配布しての駅頭キャンペーンを実施致しました。

皆「幸福の黄色い羽根」を胸に付け駅頭に練り出し、厳しい暑さも忘れ、訴える声にも力が入ります。

その様な中、客待ちをしていた或るタクシーの運転手の方が近付き、「私も手伝いますよ。乗客の皆さんに配りましょうか」と、全く予期せぬ心暖まる応援を戴く場面もありました。

この活動を通じ、明るく安心、安全なまちづくりの推進に向け、大きな輪の拡がりを願い、今後とも参加して参りたいと思います。

(春山嘉正)



学校との連携

戸田翔陽高校

翔陽高校は、3部制・総合学科・単位制という県内唯一のシステムを採用した学校です。始業・終業のチャイムが無くて自主的・自律的に行動し、校服をきちんと着用し、気持ちの良い挨拶ができる指導をしていると、佐藤成美校長からの挨拶で情報交換が始まりました。

教頭先生、生徒指導教諭、参加保護司から近況を踏まえて自己紹介をしました。

学校側からの説明では、定時制ですが、85%が3年で卒業していて、大学等進学・専門学校・就職とほぼ同率で卒業します。転学が20名・退学が5名程度で推移しています。

約束を守れないという課題が定義され、アスペルガー症候群について、生徒指導の先生から説明があり、今後の家庭教育や社会教育の課題で難題



ですと答えられました。また、昨年開始しているのが、同敷内に特別支援学校が併設されるとの事。校舎は別ですが、一緒にイベントを行う計画も企画されている様です。環境が変化していく中で、3部制の学校としての対応が問われると感じられました。

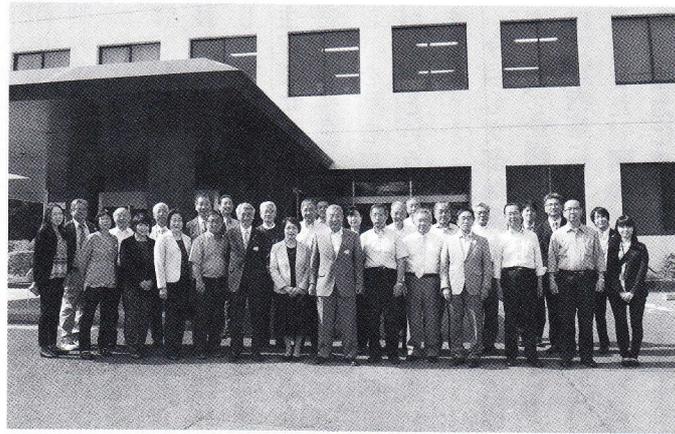
翔陽高校独自に長年取り組んでいる「不登校シンポジウム」は、今年も6月に開催しました。元不登校だった卒業生4名が、発表者となつて体験談に基づいて、現在悩んでいる不登校の子を持つ親や、生徒児童に話掛けました、発表者達は何れも教育者を目指して大学等で勉強しています。発表者達は悩んでいる親達に「何故、学校に行かないの」と言つて欲しく無い。勉強の大切さ、社会に出た時の人との関係の大切さを親が教えて欲しいと、それぞれの言葉で話され、参加した親子が、藁をも掴む気持ちで聞いている様でした。

翔陽高校では、「成長したい」「学び直したい」という強い意欲をもつ生徒を、社会で必要とされる「人財」に育てたいと云う熱心が伝わる情報交換会でした。

(細田忠良)

施設
研修

福島自立更生促進センター



平成30年度蔵・戸田地区保護司会
県外研修は5月15日（1泊2日の日
程）福島県を訪れました。主目的で
あった福島自立更生促進センター
（以下、「センター」）は、円滑な社
会復帰のために必要な環境を整える
ことが出来ない刑務所出所者を対象
として、国が設置した一時的な宿泊
場所（福島保護観察所に併設）で、
保護観察官が入所者に対し社会復帰
のための訓練やカウンセリング、就
労支援などにより改善更生を助け再

犯を防止し、スムーズな社会復帰・
自立のために取り組んでおります。

入所期間は約3ヶ月、建物は2階
建て20部屋（個室）、トイレ・浴室・
食堂は共同利用。生活上のルールと
して飲酒の禁止（帰所時にはアル
コール呼吸検査が必須）や休日のポ
ランテア活動への参加等がありま
す。

当初、センターは福島、京都、福
岡で設置予定でしたが地域住民の反
対により現在開設しているのは福島
と北九州の2か所とのことです。対
象者がうまく社会復帰できるようさ
まざまな形で支援していくことは、
再犯を防止し安全・安心の地域づく
り推進の観点
からも大変に
重要なことで
す。地域の
方々に更生保
護の理解を深
めて頂くこと
の必要性を改
めて感じまし
た。

（眞下賢）



保護観察での関わり

さいたま保護観察所

観察官 早坂健一



保護観察は、犯罪をした者・非行
のある少年に対して、私たちが生活
する地域社会において適切な処遇を
行うことにより、再び犯罪をするこ
とを防ぎ、又は非行をなくし、善良
な社会の一員として自立し、改善更
生することを助けることです。その
ため保護観察を受ける本人や家族、
本人に関わっている方々の協力を得
ながら改善更生に努めます。

本人の家族と接する機会も多く、
本人の意外な一面を発見することが
できたり、全く予想もしない場面に
立ち会うこともしばしばです。また
多くの問題を抱える家族の方と話し
合う場を持ちますと、本人への鬱憤
や悪い感情、本人が起こした過去の
マイナスイメージなどといったことを多
く耳にすることもありますので、時
に保護観察を行う私達が、本人の頑
張りや努力に目が向かず、本人の問
題行動ばかりに目を向けてしまい、

押しつけがましく経験談等を語った
り、「あなたはこうしなさい、そん
なことをしてはダメだ」等と強要し
がちになり、本人の置かれた立場や
思いやる気持ちを忘れて、ただただ
責めたり非難しがちになります。が、
これでは本人の改善更生のための最
良の方法を見いだすこともできませ
んし、本人の状況が良くなることも
ないでしょう。本人への指導も必要
ですが、それと同じくらいに本人の
良い面を沢山見つけて褒めることも
大切です。

まずは本人の気持ちや思いを受け
入れる胆（はぢ）を常に持つことで、家族等
から聞いた話も、最初に感じたもの
とは違った角度で見たり感じること
ができる知恵もわいてくるでしょう
し、冷静に話が聞ける「心の余裕・
心のゆとり・心の豊かさ」といった
ものも生じるでしょう。普段から目
先の事に一喜一憂するのではなく、
冷静に本人を見つめて、自然と生じ
る最良の方法を見いだすことが肝要
なのではないかと感じます。これか
らも沢山の方々と関わっていくと思
います。常に心掛けていきたいもの
です。

第65回埼玉県更生保護大会

平成30年11月16日、埼玉会館大

ホールにて毎年恒例の埼玉県更生保護大会が保護司等更生保護関係者約1200名参加のもと盛大に開催されました。式典が始まる前に再非行防止サポートセンター愛知の高坂朝人理事長による「自分と未来は変えられる〜再非行を減らし、笑顔を増やしたい〜」と題する講演も行われました。式典では、埼玉県更生保護女性連盟会長でもある当保護司会の本橋恵子会長による開会の辞で始まり、表彰式では当保護司会から平成30年春の藍綬褒章の斎藤典子さんはじめ、法務大臣表彰2名、全国保護司連盟理事長表彰1名、関東地方更生保護委員会委員長表彰5名、関東地方保護司連盟会長表彰1名、さいたま保護観察所長表彰5名、埼玉県保護司会連合会長表彰3名の計18名が受賞の栄に浴されました。



平成30年度の藍綬褒章

齋藤 典子 (蕨)
結城 辰雄 (蕨)



齋藤 典子



結城 辰雄

法務大臣表彰

長瀬 文雄 (戸田)
御嶽 隆英 (戸田)

全国保護司連盟理事長表彰

奥住美千子 (戸田)
秋元 徳夫 (戸田)
萩 智子 (戸田)

関東地方更生保護委員会委員長表彰

須永 年長 (蕨)
細井 玲子 (蕨)
細田 忠良 (戸田)

関東地方保護司連盟会長表彰

星 宏和 (戸田)
さいたま保護観察所長表彰

萩 良明 (戸田)
平山 憲司 (蕨)

藤井 道子 (蕨)
峰岸 誠 (戸田)

湯沢 保紀 (蕨)
埼玉県保護司会連合会長表彰

関口 直子 (蕨)
津田 直哉 (蕨)

本間 幹雄 (戸田)

拜命して一年

浦野 一郎 (戸田)

保護司としての活動は、今まで知らなかったことを知り、今まで考えなかったことを考えるいい機会となつていきます。また、これまでは特に何も考えなかったようなニュースについても、違った視点から受け止めることが多くなりました。これからも研鑽を積み、自分の個性を生かした保護司活動をしたいと考えています。

山崎修司 (戸田)

先日、北洋建設社長の更生保護の実践を特集した番組を見た。難病の身体で、保護を願う人からの手紙に真摯に向き合い、一人一人に丁寧な手紙を書く姿があった。自分の犯した罪の理解に不足する人には大変厳しいものもあった。

新米の保護司には考えさせられる内容である。色々学びたい。

新任保護司の抱負

荒井育恵 (蕨)

今回、保護司研修会を受けていて、懐かしい感覚になりました。それは、校内暴力が全国的に話題になっていた昭和50年代のことです。私は北海道で養護教諭として中学校に勤務していました。ある日転校生がやってきて「自分は6回も家裁のお世話になつていて。後やってないのは殺人だけだ」と言う生徒でした。当時は無力だったけど、今なら役に立てるかもしれないとの思いで引き受けさせていただきます。

庄野拓也 (蕨)

平成30年5月に辞令を頂き身の引き締まる思いです。何事も勉強として、できる限り携わって参りたいと考えております。少年も成年も保護観察に至る背景にはそれまで関わってきた人や環境の影響を少なからず受けていることでしょうか。保護司としての役割を務めながら、子どもを持つ親として、社会人としてこれまで50年の人生で得た経験や知識をもつて対象者に寄り添うことができればと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

保護司の異動

新任

荒井 育恵 (蕨)

荒木 豊 (蕨)

庄野 拓也 (蕨)

サポートセンター だより

サポートセンターを開所している戸田市福祉保健センターでは、毎年「健康福祉まつり」が開かれていますが、今年からは福祉や保健に関する市民へのさらなる周知効果を期待し、まつりをリニューアルしました。

戸田市、戸田市社会福祉協議会、戸田市社会福祉事業団の3団体主催となり「健康福祉まつり」と「社協ふれあい祭り」が融合し「戸田市健康福祉の杜まつり」となり実施されました。

保護司会も毎年参加協力をしており、当日は、物品・リーフレットを配布し更生保護活動の啓発をするともに、子ども達とのふれあいの場として折り紙で「コマ」づくりを一緒にする事で交流を深めました。

(奥住美千子)



保護司会ブース

ケニアの保護観察所訪問

2018年8/18~24 埼玉県保護司カウンスリング研究会

日本の約1.5倍の国土を有するケニアは、拘禁刑に偏り、刑罰に重きがおかれてきた。近年は社会内処遇での更生をめざし、ヨーロッパや日本の保護観察制度が導入され、日本に研修を受けに来ている保護観察官や保護司もいる。

地域が広く対象者との距離があり、言語、文化、宗教、部族のちがいが、貧困、と多くの問題を抱えているが、少しずつ前に向かって取り組んでいる。

ケニアでは 8歳から刑事責任があり、対象者の年齢は12、3歳位から多い。薬物依存では大麻が一般的で、安価なシンナー、アルコール、ヘロインなどが学校を通して広がっているという。そして子どもが子どもを産む、児童労働などの厳しい現状を支援し、地域で子どもを見守っていくシステムが急がれる。



マチャコス保護観察所の皆さんと



野生のゾウ

平成31年度 年間事業計画 (案)

2月	1月	12月	11月	8月	7月	5月	4月
役員会	広報誌発行	年末保護強化研修	役員会	役員会	社会を明るくする運動	県外研修	総会
第4期地域別定例研修	保護司候補者検討協議会	第3期地域別定例研修	第66回埼玉県更生保護大会	第2期地域別定例研修	保護司候補者検討協議会	サポーターセンター運営 (4月~3月)	第1期地域別定例研修
							平成30年度監査

またリハビリテーション施設やカウンスリングセンターがないこと。そして保護司に対する継続的な研修が行われていないことが大きな課題だそうである。

(カウンスリング研究会 榎本恭子 氏の研修日記より 細井玲子)

編集後記

ここ数年、犯罪件数は減少しているが再犯率は増加している。今号の戸田市長と蕨市理事の挨拶にも再犯防止について触れている。就労支援対策は犯罪防止や再犯防止対策にも非常に有効だ。現在、求人難で仕事と比較的見つけやすいことが犯罪減の一因と考えられる。しかし、3K職や肉体労働の職人は、人気がない。昔から日本では、いわゆる一芸に秀でるような職人は高く評価されている。人間国宝や現代の名工といった高い社会的評価制度も確立されている。職人が高く評価される日本では、職人としての仕事に誇りを持って働き続けられれば、この仕事を極めて良かったと思えるのではないだろうか。

編集委員長 大山正治

編集委員

- 泉山 高子
- 大山 正治
- 奥住美千子
- 小槻 保美
- 春山 嘉正
- 細井 玲子
- 本橋 恵子
- 山内 俊和
- (50音順)